

## 勝利でなく混乱——これが帝国のゲームの目的である

【訳者注】本欄にこれまで取り上げた、最も説得力のある、すぐれた論文の一つであろう。末尾で紹介したコメントが、いみじくも「感謝」を表明している。

まず現在、中東を中心に起こっている戦争は、我々の常識としての、国家のために死んだ人を「英霊」とするような戦争ではなく、傭兵を使って汚いことをさせる、人類史上最も汚い戦争である。にもかかわらず、西側世界のメディアはこぞって、その本質を隠そうとしている、あるいはそう強いられている。最も強力であると同時に、最も残忍で、軽蔑すべき者たちが、明らかに物に憑かれたように、世界を奪うか破壊するかの戦争を準備している。ここで紹介したある論文が言っていたように、我々が対処を誤る原因の一つは、彼らを我々と同じ人間だと思ふことである。それはここ数か月でも、かなりの程度見えてきたことだが、彼らの本性は今後ますます明らかになると思われる。

By Peter Koenig

May 5, 2015 (Information Clearing House)

またひとつ、西側によって“解放された”国家が、底なしの混乱の泥沼へ沈んでいきつつある。これは、ワシントンとその西側および中東の手先国が、戦争——永続する混乱、悲惨、死、そして隷属——の種を植え付け、紛争に巻き込んだどの国についても言えるだろう。

ポイントはこういうことである——ワシントン/NATO の戦略は、戦争や紛争に“勝つ”ことでなく、現在のような無限に続く混乱をつくり出すことである。その理由は、1) 人々と国家、その資源をコントロールすること、2) 西側がたえず必要とする人的・物的軍事装備を保証すること。(アメリカの GDP の 50%以上は、軍産複合企業、その関連産業やサービス業に依存していることを忘れないでほしい。) それに、3) 無秩序または混乱に陥った国は、必ずカネを必要とすること。それは厳しい条件を伴うカネ、IMF や世界銀行や、他の関連する黒い“開発機構”、金貸しから受け取る、“緊縮財政”を伴ったカネであり、これは奴隷状態に相当するもので、特に、自国民のことを考えない、腐敗したリーダーが関係する。

これが、イエメン、ウクライナ、シリア、イラン、スーダン、中央アフリカ、リビア等々において行われているゲームの目的である。誰が誰と戦うかということは重要でない。ISIS/ISIL/IS/DAISH/DAESH/Al-Qaeda その他、この傭兵・殺人鬼組織にどんな名前をつけようと、それらは混乱させるための名札にすぎない。この他に、Blackwater, Xe, Academi,

等々、さまざまな、簡単に識別できないように選ばれた名前を、ここに加えることができる。彼らは、シオニスト - アングロサクソン帝国の売笑婦たちであり、最低レベルの売笑婦である。次に、サウジアラビア、カタール、バーレーン、その他の湾岸諸国、それにももちろん英や仏といった、エリート売笑婦がくる。

オランダ大統領は、24 Rafale ジェット戦闘機の売却のために、カタールとの数十億ユーロの契約にサインしたばかりである。彼は今、サウジの王 **Salman** と交渉して、もっと多くのラファール戦闘機を売るために、リヤドに向かっている。(これはよいビジネスで、ねつ造された敵を殺すのに役立つ。) 彼のもう一つの目的は、5月5日の湾岸協力会議 (GCC) に出席することである。この会議の議題は、イエメンを含む地域の“危機”であるが、これは西側が、ワシントン (と、そのシオニスト主人たち) のために植え付けた危機で、単にもっと公正な政府を求めているだけの、“反乱者”に転嫁されているものである。

西側のつくり出した言葉はあまりにも胸が悪くなるもので、それは我々の脳に入り込んだウィルスか、その後遺症のような感じであり、そうした言葉がどんな意味だったのか、分からなくなっている。我々はそれらを繰り返すうちに、信ずるようになった。結局、そうした言葉を毎日繰り返して、我々のはらわたに染み込ませたのは、主流メディアである。自由のために、圧政的政府に逆らって生き残るために、戦う人々は“テロリスト”であり“反逆者”である。アフリカからの難民たち、ワシントンが原因となった戦争で荒廃した国々からの難民たち、すでに今年だけで4,000人以上が、“ましな生活”を求めて地中海を渡ろうとして死んだ難民たち——彼らはこれまでずっと“移民”という便利な名前と呼ばれている。しばしば“不法”という言葉が頭につくこともある。そのようにして西側は罪の意識をごまかしている。移民は乞食である。不法移民は投獄すべきである。彼らは、西側が“移民たち”の故国に植え付けた動乱と混乱に、何の関係もない。——ブリュッセルよ、恥を知れ！

混乱に戻るとしよう。オランダ氏は、彼の売るジェット機が、ご主人のお役に立つものであることをよく知っている。それはこの地域で、もっと多くの混乱、もっと多くの死、災難、悲惨、奴隷制度、地中海で溺れ死ぬもっと多くの難民をつくり出すことを、彼は知っている。更に多くの永続する混乱、生死の瀬戸際にいる人々、もはや祖国のために、彼らの資源のために、彼らの自由のために戦うことのできない人々が、更につくり出される——彼らは、自分の生き残りそのもののために、自分の子供たちや家族の生き残りのために、戦わねばならないのに——。それが帝国の実態だ。

教えてほしい——武器や戦闘機、その他の殺すための機械を、それが人々を殺し、国を破壊するのに使われる武器であることを、よく知っている国家に売る者——そのような者は大量殺人者ではないのか？ 最悪の戦争犯罪人ではないのか？

オランダ氏は、戦争犯罪人であるばかりでなく、その日の終わりには、大量略奪のおこぼれにありつけると信じ、ご主人たちと一緒に、乳と蜜の豊かな海を泳げると信じている完全な馬鹿者である。彼は、ヴィクトル・ユーゴー、スタンダール、バルザック、デュマのような人々を生み出した彼の偉大な国の経済を、殺しの機械を帝国の他の手下どもに売ることによって、救わなければならないと考えているのだろうか？ 彼は、彼の選挙民の 83%が、彼を軽蔑していることを気にしていないのだろうか？

騒乱、混乱、悲惨を拡散すること——これがワシントンとその従僕国の、最も得意とするものである。彼らは戦争に“勝つ”ことは考えていない。彼らは、永続する混乱と悲惨、たやすく従属させることのできる人々——彼らのいわゆる“全方位支配”——を求めている。

そして、米軍とその兄（か姉）の NATO は、あらゆる所にいるわけにいかず、どこにでもいると思われたくないから、殺し屋を雇う。ワシントンこそ、ISIL、Daesh、Al-Qaeda を発明し、創造し、無限の財源で資金援助した者で、その主人たちの望む通りにレパトリーが大きくなると、彼らは彼らの主人たちのために戦い、殺し、混乱とニセ旗をつくり出す。そして結局は、NATO やペンタゴンのブルドーザーが、そこに割り込んで、そもそも彼らが創りだしたこの傭兵たちを“滅ぼす”ふりをするのである。ただ主流メディアは本当のことを言おうとしない。

メディアは、シーア派の左傾した世俗的・人道主義的グループであるフーシ派と、スンニ派が、イエメンで覇権を争って戦っていると信じさせ、サウジ軍とその GCC 友軍が、一群のテロリストからイエメンを解放しようとしていると信じさせ、フーシ派はイラン（支配的なシーア派国）の支援を受けているのだから——これは最近、国連職員が強く否定した——フーシ派を制圧しなければならないのだと信じさせている。同時に、ワシントンには、イランにもう一つの罪を着せねばならない、更なる理由がある。ひとたびフーシ派が制圧され、十分な数だけ殺されたときには、前大統領 Saleh か、彼の後継者 Hadi に似た傀儡大統領が据えられるだろう。その目的は、ワシントンが戦闘を呼びかけ続け、この国の人民がアデンの戦略港——と湾岸——を無制限に利用するのを禁止することができるように、である。

ウクライナも同じだ——ISIS/ ISIL/ Daesh/ Al-Qaeda、名前はどうかだろうと、彼らはウクライナにいるのだろうか？ 確実にいる——もちろん CIA の指令のもとに、6,000 名ほどの訓練役としての米軍部隊と一緒に。彼らはキエフ軍を訓練して、ドンバスの彼らの同胞の、最もうまい、迅速な殺し方を教える。兵士たちは、どうしたら永続する混乱がつくり出せるかを教えられる。そしてもし兵士たちが、自分たちの兄弟を殺す訓練を拒否すれば、キエフのナチ政権は、彼らを反逆者として射殺するだろう。真正面から。とても簡単だ。そうすれ

ば誰も抵抗できなくなる。

同じくらい重要なことは、米軍の“アドバイザー”と CIA は、彼らの雇った殺し屋、キエフのナチス、ISIS/ Daesh/ AlQaeda の助けを借りて、プーチン大統領を挑発して戦争——おそらく第三次大戦——を起こそうとしていることである。そう、これは 100 年以内の 3 度目の大戦で、ヨーロッパを、おそらく世界を壊滅させる可能性がある。これまでのところ世界は、ほとんどは、プーチン氏の、対決しないという賢明な戦略のおかげで、この惨事をまぬがれている。

そこで——ISIS/ Daesh/ Al-Qaeda がウクライナにどうかにか、疑問の余地はない。彼らは、帝国が命令するあらゆる場所にいる。そのために彼らは支払われているのだから。それは売笑婦がやることと同じである。特に、創造された売笑婦、報酬のよい売笑婦であればなおさらだ。イデオロギーなどは、西側メディアが、重宝して使っているイチジクの葉にすぎない——ムスリムは悪で、ある者は別の者よりもっと悪いなどと信じさせるために。西側は彼らと戦わねばならない、なぜなら彼らは、我々の自由、我々の民主主義にとって、深刻な目の前の危険だ——そして特に、我々のネオリベラルな、すべては許される市場価値にとって危険なのだ——。

それこそが彼らの究極の目標である——商品としての人間、使い捨て可能な人間、大砲のエサとしての人間、(有毒な) 遺伝子組み換え食品によって大量死させるべき、無人機によって、爆弾によって、故意につくり出した飢饉によって、殺しつくすべき人間。そのようにして最後には、生き残った者が、わずかのエリートたちの奴隷となる。エリートたちは、地球の四隅とそのすべての資源を、例外的存在である自分たちの生活様式を維持するためにコントロールする。最後に彼らは、壮大な輝きの中に生きる一握りの、例外的な住民に還元されるであろう。

今も生きている最も残忍な戦争犯罪人の一人、ノーベル賞候補といわれるヘンリー・キッシンジャーが 50 年ほど前に話した、悪名高い言葉を思い出そう——「食糧供給をコントロールする者は、人々をコントロールする。エネルギーを支配する者は、全大陸を支配する。カネを支配する者は、世界を支配することができる。」

こうした言葉は、日ごとに真実味を増していく。しかし、我々がそれを許す限りにおいて、我々人民が、我々地球居住者の 99.999% が、それを許す限りにおいてである。

(ピーター・コーニグ [あるいはケーニヒ] は、エコノミストで地政学アナリスト。彼はかつての世界銀行のスタッフでもあり、環境や水資源の分野で、幅広く世界中で仕事をした。

著書として、事実と世界銀行の 30 年の世界的経験を基に書かれた小説、*Implosion—An Economic Thriller about War* や、*Environmental Destruction and Corporate Greed* がある。）

[なお、この論文に対するコメントで、最も支持投票数の多いもの（現在 44 票）を、参考のために下に訳しておく。]

この論文に感謝したい。いまだに多くのアメリカ人で、あきれするような楽観主義者がいて、我々は世界のために尽くす勢力で、爆弾を一つ落とすごとに、民主主義を広めているのだと思っている。彼らは、何であろうとそれに代わるやり方は、旧ソ連の血による善意よりもっと悪いという考えに、いまだに取り付かれている。

そしてオランドという男は、超人間のクズで、モスクワを訪問して第 2 次大戦の犠牲者に敬意を払うよりも、売春婦のように、湾岸の君主たちに **Rafale** 戦闘機を買わせた。しかもこれら西側のリーダーたちは、惨憺たる承認の点数をもらいながら、無知の幸せ者として平気でやっている。これが昨今の、世界の一流民主国家のありさまだ。